

氏名	木 下 篤
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3068号
学位授与の日付	平成8年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Dual energy X-ray absorptiometry(DXA)法による 高齢女性の大腿骨近位部骨密度の検討
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 清野 佳紀 教授 村上 宅郎

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

DXA装置(Hologic社製, QDR-1000/W)が大腿骨近位部での測定精度を維持しうるための下限骨密度値を設定した。次に高齢女性で大腿骨近位部骨密度がこの下限値以上の症例において、生活動作が骨密度の経年的変化におよぼす影響について分析した。

対象は $K_2HPO_4$ 溶液を封入したアクリル製大腿骨近位部ファントムと65歳以上の高齢女性177名(測定期間2年以上)とした。ファントムの測定結果より、下限骨密度値を設定し、骨密度がこの下限値以上の症例について、生活動作レベルと年齢・体格要因が骨密度変化量に及ぼす影響を統計学的に検討した。生活動作レベルで群別した3群の骨密度変化量については、生活動作レベルの高い群ほど骨密度の減少が少なかった(大腿骨頸部では、生活動作レベルの高い群より順に $-0.002g/cm^2$ ,  $-0.014g/cm^2$ ,  $-0.038g/cm^2$ )。また検討項目の内、骨密度変化量に最も大きな影響を及ぼしたのは生活動作であった。結論として、高齢女性においては生活動作の向上が骨量減少の予防に有効であるといえる。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究はDXA装置の低骨密度検体における下限骨密度値設定および65歳以上の高齢女性177名の大腿骨近位部骨密度測定に関する基礎的ならびに臨床的研究である。従来十分解明されていなかった生活動作レベルが経年的骨密度変化量におよぼす影響について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。